

第2回定時総会を開催

田鎖郁男氏を協会活性化担当理事に選任



挨拶する二木会長

当協会は5月26日(火)、渋谷区神泉の神泉風来ビルで、第2回定時総会を開催した。出席は51名(委任状を含む正会員は44名)。来賓は林野庁木材産業課木材製品技術室の小坂善太郎室長、同課服部浩治課長補佐、当協会名誉会員の有馬孝禮先生(東大名誉教授)、矢田茂樹先生(横浜国大名誉教授)。

総会は、北出理事による「今年も“木のいえ一番”で頑張ろう」の力強い開会宣言で開幕。続いて挨拶にたった二木浩三会長は、26年度の協会運営にふれ、「初年度は、すべてが予定どおりに実行できたわけではない。しかし協会運営の中心となる4委員長を決め、さらに協会の柱と言うべき事業の方向づけを行い、今後の協会活動の基盤ができたと考える」と語り、さらに27年度について、「前年度の反省を踏まえ、重要課題への取り組みを具体化する年にしたい。木の良さをもっともっと広め、本気で木を使うことを協会活動の中心にしたい。皆様のご理解とご協力を頂きたい」と結んだ。

林野庁の小坂室長は、来賓を代表して挨拶し次のように語った。

「政府の“成長戦略”や“まち・ひと・しごと創生総合戦略”に、“林業の成長産業化”が盛り込まれている。木材需要の創出と国産材の安定的・効率的な供給体制づくりのため、政府一丸となって取り組んでいる」

「木材利用は、地方創生に役立つほか、“森林整備が進む”、“住環境の安らぎや調湿作用が高まる”、“地球温暖化防止に役立つ”など利点が多いことから、“地球に優しい”“人に優しい”“地方にも優しい”と言うことができる」

「新規用途開発のため、国交省とともにCLTのロードマップをつくり中層、高層ビルの木造化に取り組む一方で、低層の木造化、商業施設への木材利用など都市の木造化・木質化に取り組んでいる。オリンピックパラリンピック施設への木材利用にも積極的に取り組む。皆さんの一層のご協力をお願いしたい」

このあとの議事は、二木会長を議長に、平成26年度事業及び同決算の報告を行い、田鎖郁男氏(株式会社エヌ・シー・エヌ代表取締役社長)を理事に選任するなど、予定の議案が異議なく了承された。田鎖氏には、協会活性化の担当理事として、運営活性化委員会委員長の北出理事と連携して取り組んで頂く予定。

議事終了後の特別講演では、有馬先生に「意外と知られていない“木と水”」と題するお話を頂いた。また新規会員として3月に加入頂いたナカザワ建販(株)の中澤伸文会長の「協会の活動により、木のいえを愛する社会が一層広がることを期待している」との乾杯の音頭で懇親会を開催し、和やかな懇談のうちに第2回総会の全日程を終えた。